

学校だより

9月号

みんなが笑顔になる学校！



厳しい暑さの中で



39日間の夏休みが終わりました。校舎は夏休み中の静けさから一転、子どもたちの声が賑やかに響き渡っています。久しぶりに会う子どもたちの日焼けした笑顔、そして仲間と話す姿からは、「学校が始まって楽しい」という雰囲気伝わってきます。

この時期、気をつけたいのは熱中症です。夏休みが終わってもまだまだ暑い毎日が続きますので、学校でも子どもたちの体調には十分に気をつけていきたいと思います。

夏休みがあるのは何のため？



エアコンが完備された現代の学校では、季節に関わらず快適な学習環境を提供できるため、昔のように「暑くて授業に集中できない」といったこともありません。それでも私が夏休みを必要だと思うのは、「子どもたち自身が自由な時間の中で、自らの行動を決める大切な機会」として捉えているからです。普段はチャイムや教師の指示で動いている子どもたちですが、素直さや従順さだけでは考える力が身につかず、人の言いなりでしか動けない人間になってしまいます。大切なことは、彼らが「自分で決める」ということ。何が正しくて何が間違っているのか、今何をすべきなのか。それを考える機会を増やしていく中で、これからの社会で必要とされる主体性や自己調整力を育みたいと考えます。そして、夏休みはその絶好の機会だということです。

夏休み前集会では子どもたちに「1日の計画を立てるように！」という宿題を出していました。人は目標を持って行動しないと、どうしても楽な方に流されてしまいがちです。その結果気がつくとゲームや動画ばかりになったり、夜更かしをしてしまったり、宿題が後回しになったり……。こんな経験は私たち大人でもよくあることでしょう。子どもたちも、この宿題の難しさを実感したことだと思います。

子どもたちに判断を委ねることは、失敗を許容することでもあります。子どもたちには、成功体験だけでなく失敗から得られる学びも大切にしてほしいと思います。そして、いつの日か「自由」であることの心地良さを感ずるとともに、その裏側にある「責任」についても考えられる大人になってほしいと願っています。

「楽しみ、共に創る」イベントの実現を！

毎年11月にPTAが中心となって「学文路子どもまつり」が行われてきましたが、昨年度からKamuKamu交流Dayでも「何かイベントのようなものをしたい」といった意見が地域の方々から寄せられていました。

そこで、今年度は保護者・地域住民・教職員・児童と一緒に創る「学文路子どもまつり」を実現したいと考えています。テーマは「共創(きょうそう)」。誰かが準備したものにお客さんとして参加するのではなく、みんなで一緒に創りあげていくことを大切な価値と考えました。

